

特別  
5517





特

門 へ 4  
號 5517  
卷



初春待花

源行孝上

引ひこり門をぬりまゝにぬれ

おもしろのまねの雨敷

霞隔遠樹

檜原のまろりまろり残心まろり

おもしろのまねとまねへまねへ

胡里志

昭和三十一年  
十月十六日  
購求



ふの指のさしをきよまはくさの  
らふもあもへん子のまを

見花

らひわらひるふらふらふら

ふらふらふらふらふらふら

見花

らひわらひるふらふらふら

らひわらひるふらふらふら

報春雨

らひわらひるふらふらふら

らひわらひるふらふらふら

浦宿鷹

らひわらひるふらふらふら

らひわらひるふらふらふら



解志

爰しねあはくまはあまのつらみはなほ  
あはれしきまゝのつらみ

初郭云

一はあまのつらみはなほあまのつらみ  
あはれしきまゝのつらみ

曉郭云

村多鳴すはあまのつらみ  
あはれしきまゝのつらみ

七ウノ集

織女やあまのつらみはなほあまのつらみ  
あはれしきまゝのつらみ

七ウノ別

あまのつらみのつらみはなほあまのつらみ  
あはれしきまゝのつらみ



つらつらし 何となく 病々々々々

夜虫

終東あふれぬのまはれぬ  
なまぢりあつて 虫と 鳴らん

雨後月

晴るまゝのやまはふらふら  
あつらん 月のりりらら

池上月

静かにあつらん  
くまのやまの池わらわら

古宅月

月のまゝあつらん  
らゝあつらん 蓮生の露

遠村紅葉



あはれをまじひのちのち城の中を  
あはれをまじひのちのち城の中を

梅宿時雨

くさくさはらばらあはれくさくさ  
くさくさはらばらあはれくさくさ

寒夜千巻

さびやうきくさくさくさくさくさ  
さびやうきくさくさくさくさくさ

ゆきやうきくさくさくさくさくさ  
ゆきやうきくさくさくさくさくさ

朝雪

あはれいと朝の雪はあはれいと  
あはれいと朝の雪はあはれいと

あはれいと朝の雪はあはれいと  
あはれいと朝の雪はあはれいと

春雨

あはれいと春雨はあはれいと  
あはれいと春雨はあはれいと

あはれいと春雨はあはれいと  
あはれいと春雨はあはれいと



家風恋

我思如君の心は  
此の心は君の心

寄草恋

かまの思は君の心  
この心は君の心

家本恋

かまの思は君の心  
この心は君の心

寄獣恋

かまの思は君の心  
この心は君の心

海邊恋

かまの思は君の心  
この心は君の心



月まらあへあへる舟入

山家嵐

紫のこゝろはつゆはつゆと  
よのあゝとてなむ

懐旧涙

風のとらゝるもあはれなる  
かよふ人志はなほかた

釋教

空しくも道人の月ハ在の  
くさくさなれはなむ

寄道祝

いづれわあはれなむ  
よの玉よりほすれがなる道

愚點十首



華夷皆樂春

けしあふら都を鄙よりいある

よのらうり環へ吹けふあて

野霞

ゆく末も雲の衣けらくを

こころのゆめはくふふ花の原

霞隔遠樹



二見し心ゆくはなむかひ  
こゝろあはれなき春の村さ

河霧

花鳥風吹くよ  
うかみの国をきこゆる

竹宮

ふ里のふねや一舟  
長竹の

るまらうおき  
の音

澤若菜

うらじりて若菜摘やふねの音

けの歌こゝろは  
力なり

隣家

丁舎ののらとあはれ  
中垣の

うらみ  
あはれ



或人の伴とて庭の梅枝

さそふにふりよめは枝葉の

らねと花のよみに白く

待花

白雲のきくこわてと伴約山

やますらよとねを待は

花



らねよはのくると梅ん山橋

さよてらえぬがしらと母

見花

さしにらるるのさきと人

さしとらるるのさきと人

大物門裡光の亭ふて

花田客と云り紙



あつてはさういふうゝをさういふ  
ふれのもういふうゝをさういふ

歌花

あつてはさういふうゝをさういふ  
あつてはさういふうゝをさういふ

西騎中見よ

あつてはさういふうゝをさういふ

あつてはさういふうゝをさういふ

古寺花

あつてはさういふうゝをさういふ

暮山花

あつてはさういふうゝをさういふ



ふき花

ふき花のつぼみは  
ふき花のつぼみは  
ふき花のつぼみは

古漢詩

ふき花のつぼみは  
ふき花のつぼみは  
ふき花のつぼみは  
ふき花のつぼみは  
ふき花のつぼみは

かろくろく長岡直之

孫白まぢぢぢぢぢぢぢ

つらつらつらつらつら

つらつらつらつらつら

つらつらつらつらつら

此山 詠集 更 面白

西村法師のあまのつらつら

いそとととととととと



うしろのあなをせをける  
くはあなをのちのち  
或はの坪あなをのち  
あなをのちあなをのち  
あなをのちあなをのち  
あなをのちあなをのち  
あなをのちあなをのち  
あなをのちあなをのち  
あなをのちあなをのち  
あなをのちあなをのち



あなをのちあなをのち

春海

あなをのちあなをのち  
あなをのちあなをのち  
あなをのちあなをのち  
あなをのちあなをのち

あなをのち

あなをのちあなをのち  
あなをのちあなをのち  
あなをのちあなをのち  
あなをのちあなをのち



野内巻

郭公のうらなふよふ花の  
うらなふのなほあり

橘

うらなふのうらなふの  
うらなふのうらなふの  
うらなふのうらなふの

池蓮

池のうらなふのうらなふの  
うらなふのうらなふの

遠夕巻

うらなふのうらなふの  
うらなふのうらなふの

五取巻

うらなふのうらなふの



月よし〜いよまのうら

夕納涼

ま林のむすのさうい水無瀬川  
よのふとれ風のうら

七夕枕

星合のこよひのあよせ一帯か

あゆとあこの舞の夕枕

七首の内一首  
舞の夕枕

七月十四日

かよ玉のさういよまのうら

雨朝のぬくねをうら

軒萩

さういよまのうら

萩のよまのうら風の夕枕

閑庭薄



こゝに待ね残らんことよりの我のこの  
おんれうあゝ〜よんぼん〜ん

出聲函

秋のよけあふよけあふあふよの  
あ〜〜てよん〜あ〜の〜あ〜

海上待月

漕出〜ま〜の海に沖はあ

ら〜吹をく〜月のと〜舟は

連日雨降るに十あ暮る終

るは

と雲〜は〜の〜あ〜人

ら〜あ〜や〜あ〜

寛文六年八月十日新島九瀬慶

編の亭めし月前會な〜云



未成

わらわもやうな人へ  
あつすななぬ月のいよも成

九月十三夜

がふあゝあゝ月のあえハかり月乃  
らゝ成一葉よあゝあゝあゝ

関月

秋のよらあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

浦月

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ

磯月

あゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝあゝ



あつたてのついでに

山家秋月

すつ穂をまねて  
新ハさね

田家月

露のよしの田の菴より  
福のよしの

故郷月

あつたてのついでに  
津草のついでに

裁菊

あつたてのついでに  
裁菊のついでに

十日菊



ふる人のらわらふはるるはるる  
ふれはるはふと木物ふふ

秋夜長

ねまそのはるはるはるはるはる  
まふかーはるはるはるのら

嵐吹寒草

はるはるはるはるはるはるはるはる

うはるはるはるはるはるはるはるはる

ふはるはるはるはるはるはるはるはる

籬のふはるはるはるはるはるはる

秋寒草

物日はるはるはるはるはるはるはるはる  
はるはるはるはるはるはるはるはる

冬月



Handwritten text in cursive script, likely a continuation from the previous page.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

待書

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

待書

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.

待書

Handwritten text in cursive script.

Handwritten text in cursive script.



浦雪

けさの雪は烟をくえして  
うしろの山や城の白く

雪中松樹位

ゆきよふさふさの松の  
は枝のくまをくまの松の

霧松雪

く霧のふさふさの松の  
つらやふさふさの松の

七條羽林本位の白松雪

も積り

白松のふさふさの松の  
あつたふさふさの松の

出窓







寄舟書

我神のしくたはるるの如く  
ふらりてしるるるるる

寄池書

わらりわぬ池のしくるるるる  
ふらりてしるるるるる

寄鳥書

ふらりてしるるるるる  
ふらりてしるるるるる

寄書

ふらりてしるるるるる  
ふらりてしるるるるる

名取書

ふらりてしるるるるる



いづれそとてしる布門の流

名取磯

うねりくま白浪かきそふさふさ  
浪高うねりの廣かきそん

名取泊

根衣はみかきそあそい  
うねりそ月のもろあそい

名取鶴

和弁のうねりあそい  
うねりそとてしる求食な鶴

名取中川

流志らるるうねりあそい  
うねりあそいあそいあそい

名取中川



我よりちかふら出て花を手に  
のこらふ心も涙のまじり

舞中一巻

ふらふらと春の風をよみよみよみの

ら積ゆく末のまじり一村

海楼

あまのりこら積ゆくこころにまじり

蓬もあつりす出る船人

風破松後

あまのりこら心のまじりついで

あまのりこら峰の雲風

山家春

船人よみよみよみのまじり

あまのりこら心のまじりついで



予家林

いふことばはなほなほ

新編のしるしをいふ

懐白

世にあらざるもの

とすべしとすべし

玉津島

和字のしるしをいふ

あはれなるもの

釋教

いふことばはなほ

いふことばはなほ

山中瀧水

いふことばはなほ







よきことなり

毎の中毎の中は

三つ目の心は

成人の戒戒なり

かゝる心は

思ふこと

成人の戒なり

和字の心は

三つ目の心

成人の戒なり

かゝる心は

思ふこと

和字の心は

三つ目の心







くさりの道よあはれにすまはる  
あはれにすまはるあはれにすまはる

藤村よまはるあはれにすまはる

あはれにすまはるあはれにすまはる

あはれにすまはるあはれにすまはる

あはれにすまはるあはれにすまはる

寄呈祝

我玉のあはれにすまはるあはれにすまはる  
あはれにすまはるあはれにすまはる

寄道祝

家のあはれにすまはるあはれにすまはる  
あはれにすまはるあはれにすまはる

寄神祇祝

あはれにすまはるあはれにすまはる



つゝるまゝに 海へるは

別と珍重く

すねからる神のうらをまのまに

うらほくまう 此代の

あこは

殊勝く

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*



細川行孝者故重槐資慶卿  
之門弟而勵於志敷島道稱  
贊最異于他人也每談詠吟  
之是非取其勝絕相決者聚  
之成卷矣往年罹江府之火  
災不意亡矢惜累歲之功空  
廢再收拾且以與予而請數

篇和哥殊擇百首秀品云  
弱冠云未練無所逃罪然因  
交情之厚忘傍觀之嘲掌  
竊許諾處重責書寫而記  
其旨趣于軸末因辭不得  
偶掃一箇之硯塵平重槐  
賞羨詞者猶附者詠哥之



旁備ハナニ 法皇睿覽ヲ辱雖有ハレ  
被下レ 御點ヲ之詠今不載レ于  
茲裏集ヲ秘外ニ之於道無キ比  
倫者哉

延寶二曆

初夏初八尚書藤意光

右一北裏松名光ノ心真ノ以

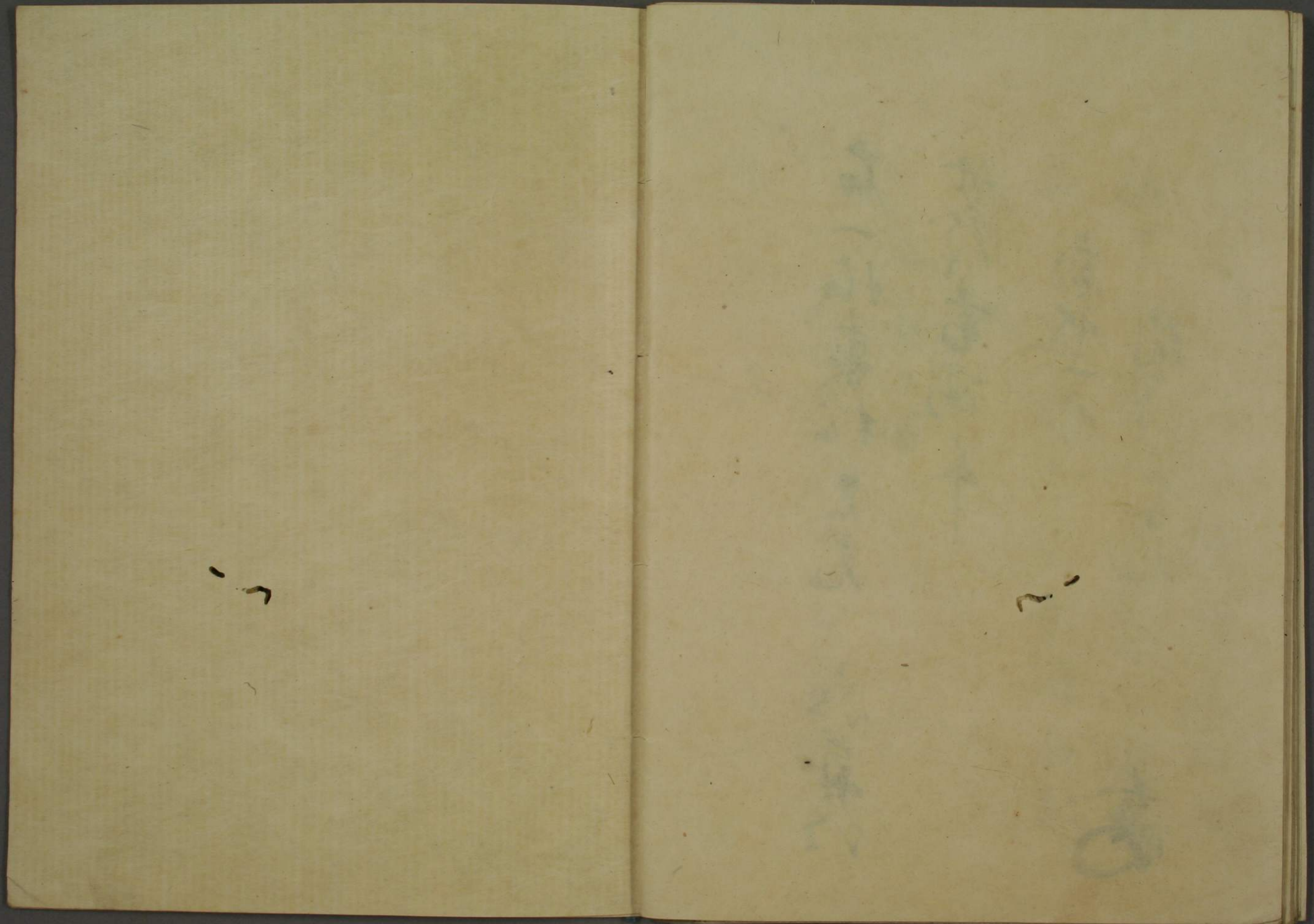
廿後書馮平

延寶二曆

和月季九

嘉





5

2



